



傾聴ボランティア養成講座

～相手に寄り添って聴く～



と き：平成24年6月14日(木)、21日(木)、いずれも午後1時～4時
 ところ：福祉センターさつき荘「スポーツ室」
 内 容：「傾聴」の基礎からボランティア活動の実際
 対 象：市内在住で両日とも受講できる人
 参加費：200円(テキスト代)
 定 員：30人(先着順)

6月12日(火)必着



申し込み

はがきに住所・名前・年齢・電話番号を書いて
 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-85
 大阪狭山市社会福祉協議会ボランティアセンターまで
 ファクシミリでも可 (FAX.072-366-7407)



問い合わせ：大阪狭山市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL.072-367-6601

主催：傾聴ボランティアグループ「傾聴さやま」
 協賛：大阪狭山市社会福祉協議会ボランティアセンター



ボランティアだより

編集・発行
 大阪狭山市ボランティアセンター
 ☎367-6601

ボランティアだより 編集委員大募集!!

現在、ボランティアだよりの新しい仲間を募集しています。
 昔、学級新聞を作るのが得意だった人、本を読むのが好きな人、他のグループの活動も知りたいな、と思っている人、どなたでも大歓迎です。ぜひ力を貸してください。

新たな発見や出会いがたくさんあり、とても楽しいですよ!!
 少しでも興味を持たれた人は、

ボランティアセンター ☎367-6601

*担当 村田、阪本までお問い合わせください。



活動内容としては、定例学習会、ボランティア通訳、手話体験教室、聴覚障がい者との交流、河内サークル連絡会の活動などです。



サークル運営については、定例会の学習担当グループを決め、会員それぞれが役割を担うことで、相互協力がスムーズになり、会員同士の信頼関係が深まったように思います。

聴覚障がい者の手話は目で見る言語です。一人ひとりの魅力ある表現とコミュニケーションを通して、聴覚障がい者と共に歩むサークルを目指していきたいと思っています。

新グループ紹介 手話サークルさやま

4月1日より市内で二つのサークルが合併して、新たに「手話サークルさやま」が発足しました。

会員数34名、手話を通じて聴覚障がい者と健聴者の相互理解を深め、福祉の向上に努めています。また、グループを一つにするので、連携や活動に、より広がりを持つようになります。

定例会は、毎月4回、金曜日、午後7時～9時公民館で開催しています。





ボランティア ジュニアスクール



2月18日(土)、福祉センターさやま荘・さつき荘にて開催!! 市内在住の小学3年生から中学3年生の子どもたちが、ボランティアを体験しました。

翌日19日には、大阪府立少年自然の家でキャンプ。野外料理やネイチャーゲームを楽しみました。



河南ブロック交流会

3月3日(土)、松原市主催のボランティア交流会が開催されました。日本在住の外国人の方から各国のボランティア情報について学んだり、他の市のボランティアの皆さんとの交流を楽しみました。



5月5日(土)市民ふれあいの里にて、開催されました。

当日は天気にも恵まれ、多くの来場者が訪れました。

ボランティアグループ連絡会では、ニユースポーツ(囲碁ボール・クロリティー)や、クラフトコーナーのブースを出しました。たくさんの子の笑顔を見ることができ、楽しい一日となりました。



市長防災セミナー

3月19日(月)、SAYAKAホールにて、東日本大震災で被災された方の講演と、宮城県に視察に行かれた方々によるリレートークが行われました。

このセミナーを通して、人と人とのつながりの大切さを強く感じました。講演の中で、「もう誰も大切な人を失わないでください」の言葉には、胸が熱くなりました。



ボランティア連絡会グループ研修会

1月27日(金)、消防署ニュータウン出張所にて、普通救急救命法について学びました。何度も受講していますが、久しぶりにやってみるとできないものです。繰り返し学びたいと感じました。





ほのぼのメモ

各家庭で具体的な防災対策を



東日本大震災以降、人々の防災意識は格段に高まっています。この一年、各地で防災・避難訓練などが積極的に行われています。量販店やネット通販でも多くの防災用品がそろっており、日常的に防災に取り組む環境が整っています。その上で、実際に対策を講じているかといえ、意識は高まっても行動に結びついていないのが実状ではないでしょうか。

政府の防災対策会議の中間報告によると、今後30年間で地震が発生する確率は南海トラフ(駿河湾から九州沖に達するプレートの境界)の巨大地震で60〜80%、首都直下地震は70%、また東日本大震災によって日本列島は大きく変化して大規模地震や火山噴火を誘発する恐れもあるといわれています。新たな震災の脅威は迫っています。気を引き締めて大震災や災害の備えを万全にしたいところですが、身近なところで「家族防災会議」を開いてはどうでしょうか。防災会議そのものが家族



の防災意識を高め、我が子への防災教育にもなります。①自宅の耐震化、家具の転倒防止対策、②震災時などの避難場所を再会するか、③非常用品の置き場所等を確認しておく、ことなどを話し合ってみましょう。

また、非常時の持ち出し品として、1次非難(災害発生時)、2次非難(一時的な暮らし)、3次非難(長期の災害生活)の3段階を想定した準備が望まれます。必要な物品も最近では1000円ショップでおおよその物が調達できます。



こうした防災の話を通じた防災の話を近隣や友人と共有し、情報交換することも大切です。対話を通じてさまざまな知恵がでてくれば、防災への取り組みも一段と充実します。

まずは我が家の防災マニュアルを作りましょう。災害時に必要な情報は家族ごとに違います。災害が起きる前に家族全員で話し合い、必要な情報を書き込んだ独自の防災マニュアルを用意し、緊急時の家族同士の連絡方法、待ち合わせ場所の詳細など話し合ったことを紙に書いてコピーし、それぞれ財布やかばんに入れていつでも確認できるようにしておきましょう。



ボランティアをしたい

ボランティアに来てほしい

ボランティアについてもっと詳しく知りたい



ボランティアに関することは、お気軽に大阪狭山市ボランティアセンターにお問い合わせください。

気が付きましたか。今回の「ボランティアだより」は写真がたくさん増えていきます。活動の様子や真剣さがよく伝わっていると思います。ボランティア活動で高齢者の方たちと一緒に歌っていると「ありがとう」と握手をしてこられます。泣いている方もいます。

編集後記

料理を作って食べて頂くと「おいしかった。次も来るわね」と嬉しそうに顔をさされます。脳のトレーニング教室では「ここに来るのが楽しみなの」と笑顔で言われます。そんな時、私の心もほっと温かくなり「私も頑張ろう」と元気をもらっています。あなたもボランティアを始めませんか。(鳥山)

ボランティア行事用保険についてご案内

ボランティア・市民活動団体が主催者となる行事活動中の、ボランティアスタッフや参加者のケガおよび主催者が賠償責任を負った場合に備えて加入いただくものです。



お申し込みについては、

- 1、名簿の作成をお願いします。(名簿に必要な内容は、名前、住所、電話番号です)(保険加入時に名簿提出の必要はありません ※1)
※1 ただし、保険加入時に名簿の提出があった方は、住居を出た時から行事を終え住居に着くまでの間(往復途中)も補償の対象になります。
- 2、不特定多数の参加者が見込まれる行事については、本保険の対象になりません。

お申し込みやご質問は、社会福祉協議会までお願いします。